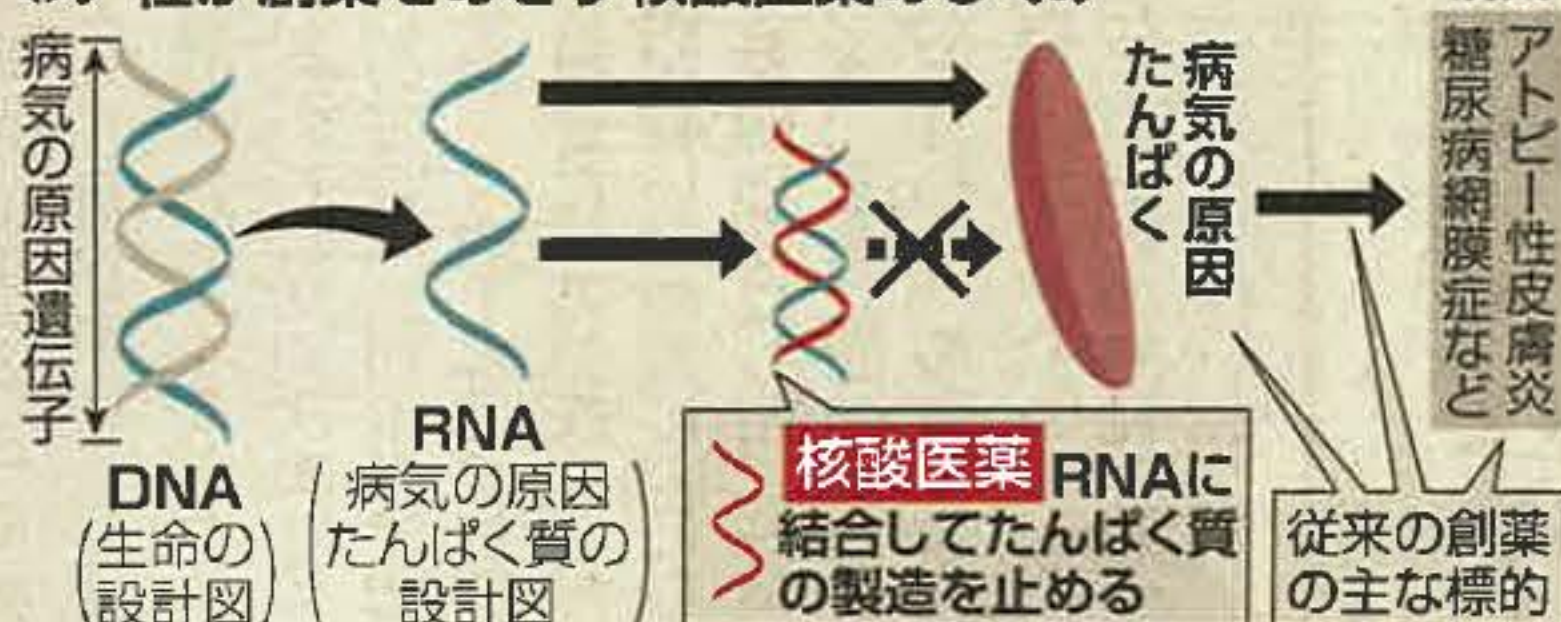


版市北区野崎町5-9 電話(06)6361-1111(代) www.yomiuri.co.jp

◆ア社が創薬をめざす核酸医薬のしくみ



次世代薬開発に出資

革新機構 成長戦略後押し

官民ファンドの産業革新機構は次世代の薬として期待される核酸医薬の開発を目指すベンチャー企業に出資する。DNAの成分を使った最先端の新薬作りに投資するのは初めて。米国などが開発にしのぎを削っているため、医薬産業を成長戦略の柱と位置づける安倍政権の政策を後押しする考えだ。

アトピーなど治療目指す

革新機構が出資するのは「アクアセラピューティクス」(福岡市)という企業で4億5000万円を出資し、社外取締役も派遣する。ア社は東京医科大、九州大、佐賀大と共同で開発を進める。開発段階に応じて追加出資も検討する。

核酸医薬は、生物にとって重要な高分子である核酸

核酸医薬 生命の設計図であるDNAなどの成分を、人工的に合成した医薬品。従来の薬が、病気の原因となるたんぱく質の働きを止めるなどして効くのに対し、核酸医薬は細胞の中で原因となるたんぱく質を作る設計図に作用し、たんぱく質の製造を止めるなどして、病気を治療する。標的となるたんぱく質の設計図を見つければ、従来より効果が高いと期待される反面、体内に入れても分解されやすいなどの欠点がある。

め、国産技術の開発を急ぎ、創薬分野で日本の国際競争力を高めるため出資する。

ア社が開発をめざす核酸医薬は、糖尿病の合併症の一つで失明の原因にもなる糖尿病網膜症や、アトピー性皮膚炎が慢性化する原因とされるたんぱく質「ペリ

オスチン」の製造を、細胞の中で妨げる。糖尿病網膜症の国内の患者数は300万人、アトピー性皮膚炎は37万人に上ると言われる。ア社は15年までに臨床試験

(治験)を始め、21年までに実用化する計画だ。革新機構は創薬ベンチャー企業への出資は4件目で、政府系ファンドとして民間資金の呼び水効果を狙っている。